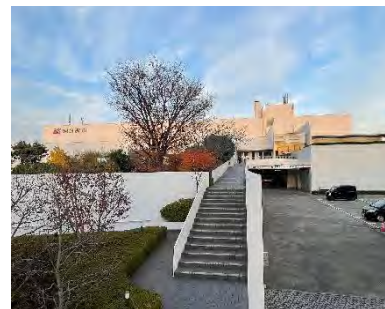


2024 年版

環境報告書



築地工場



川崎工場



船橋工場



名古屋工場



阪神工場



北九州工場



福岡工場



築地工場 川崎工場 船橋工場 名古屋工場
阪神工場 北九州工場 福岡工場
■印刷のお見積りは弊社営業部、WEB サイトまでお気軽にお問い合わせください。
TEL : 03-6278-5686 (東京) 06-6201-5226 (大阪)
<http://www.asahi-pt.co.jp/>



Asahi Printech

株式会社

朝日プリンテック

〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2

目 次

トップメッセージ	1
環境方針	2
1. 朝日プリンテックの概要	3
2. 新聞の製作工程と環境	4
3. 印刷技術の向上と環境	5
4. 環境コミュニケーション	8
● 築地工場	
● 川崎工場	
● 船橋工場	
● 名古屋工場	
● 阪神工場	
● 北九州工場	
● 福岡工場	
5. 2023 年度活動報告	24
● 築地工場	
● 川崎工場	
● 船橋工場	
● 名古屋工場	
● 阪神工場	
● 北九州工場	
● 福岡工場	

トップメッセージ

朝日プリンテックは朝日新聞の朝夕刊を中心に、東京新聞や読売新聞、日刊スポーツなど、様々な新聞媒体の大規模な印刷を担っている会社です。また、新聞輪転機に加え、連帳や枚葉のデジタル印刷機を使い、商用印刷分野においても個別の印刷ニーズにお応えし、多種多様な印刷商品を取り扱っております。新聞という重要な社会機能を担う商品を日々読者にお届けするためではありますが、紙をはじめ多くの資源を利用し、エネルギーを消費しています。そのため、朝日プリンテックでは、かなり以前から、環境対策へ精力的な取り組みをしてきました。2023 年度も、省エネルギー・省資源・廃棄物削減を重点テーマに掲げ、より高い目標に向かって、環境負荷低減に取り組みました。

省エネルギーでは、CO2 の排出量が全体で、2023 年度 16,542t（前年比 1.4%減）という状況で、細かい節電対策にも取り組み、高い達成状況を維持しております。また、印刷工程では、紙や版材などの大量の資材を利用しますので、損紙率、損紙部数、損版率も指標に取り組んでいます。機材のトラブル、作業ミスなどによる無駄を減らしたことで、損紙部数は目標を達成できましたが、一方、個々の製品の部数減少傾向にあり、印刷開始時などのロスさらなる削減は難しく、残念ながら損紙率、損版率はわずかのところで目標には届きませんでした。

技術面では、一定期間で交換が必要な輪転機のローラーやブランケットという部材の消耗部位である樹脂部分を再生し、再利用できるようにする技術に取り組み、省資源に取り組んでいます。すでにローラーの再生装置は、製品化され自社のみならず、新聞輪転を扱う他社および、商用輪転の会社でも広くご活用いただいております。ブランケットを復活させる装置も製品化し発売を開始しました。版材でもこれまで化学処理をしていたものから、9 月には無処理化版への切り替えが完了し、廃液の排出がなくなりました。産業廃棄物の削減にも努めています。

また、それぞれの工場とも、地域の美化活動や環境面での取り組みにも参加するなど、地域の皆様方とともに、地域に貢献する取り組みも進めております。

これまで長期にわたり環境活動に取り組んで参りましたが、23 年度から朝日新聞グループ全体での「環境経営」の取り組みに、朝日プリンテックも連携して取り組んでおります。2025 年 4 月には、運営する工場も 2 工場増える予定です。新しく策定しました経営ビジョン 2024 におきましても、環境対策を重要な項目として掲げました。より効率的で、高度な取り組みを達成していくという自らの目標を掲げ、環境負荷対策をより強化していき、環境活動を進めていきます。地域の皆様とともに、より一層、社会貢献にも取り組んで参りたいと考えています。



2024 年 6 月

環境担当 三上 完治

朝日プリンテック環境方針

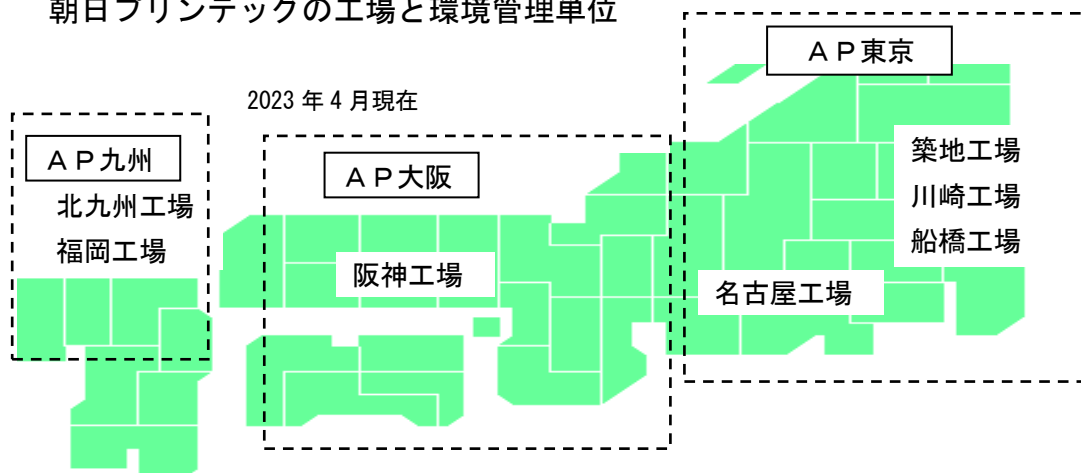
私たち朝日プリンテックは、朝日新聞グループ企業の一員として、より良き明日を願い、環境にやさしい印刷・梱包・配送事業をこころがけます。

1. 私たちが扱う製品、サービスおよび事業活動において、環境汚染の予防を図るとともに、環境マネジメントシステムを継続的に改善して、自然環境保護に努めます。
2. 環境法規制はもちろん、「朝日新聞環境憲章」などその他の要求事項を順守します。
3. 環境改善に向けて以下の項目を重点テーマとして取り組みます。
 - ① 電力などの省エネルギー
 - ② 紙、インキなどの省資源
 - ③ 廃棄物の削減
4. この環境方針の達成のため目的・目標を設定し、社員と委託会社従業員にも広く知らせ、全部門・全職場をあげて取り組むとともに、定期的に見直しを行います。
5. この環境方針は社外にも公開します。

1. 朝日プリンテックの概要

社 名	株式会社 朝日プリンテック (AP)
本社所在地	東京都中央区築地 5 丁目 3 番 2 号
代 表 者	代表取締役社長 尾形 俊三
資 本 金	1 億円
従 業 員 数	644 名 (2023 年 4 月 1 日現在)
沿 革	1997 年 8 月 川崎市で朝日川崎プリンテック創立 2003 年 9 月 朝日新聞座間工場を統合、朝日東京プリンテックに社名変更 2005 年 4 月 朝日新聞生産技術実験所(以下、世田谷工場)を統合 2006 年 4 月 朝日新聞築地工場を統合、朝日名古屋プリンテックと合併 2008 年 4 月 朝日日刊スポーツ印刷社(船橋工場)と合併 2009 年 4 月 座間工場をトッパンメディアプリンテック東京に移管 2010 年 4 月 朝日大阪プリンテック、朝日北九州プリンテックと合併 朝日プリンテックに社名変更 2011 年 4 月 日刊オフセットと合併 2012 年 9 月 中之島工場閉鎖 2013 年 1 月 豊中工場閉鎖 2013 年 3 月 四国工場閉鎖 2019 年 3 月 世田谷工場閉鎖 2023 年 3 月 堺工場閉鎖
主な事業所	大阪支社 大阪市北区中之島 2 丁目 3 番 18 号 九州支社(北九州工場) 北九州市小倉南区上葛原 2 丁目 19-1
事 業 概 要	朝日新聞、朝日小学生新聞、朝日中学生ウィークリー、東京新聞、読売新聞、日刊スポーツ、日本農業新聞、日刊工業新聞など各種新聞印刷と梱包

朝日プリンテックの工場と環境管理単位



2. 新聞の製作工程と環境

1. 製版工程（CTP）

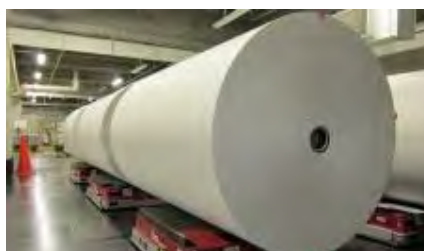
新聞を印刷するための「版」をつくるため、CTP（Computer to Plate）という装置を使います。新聞社から紙面のデータを受信し、アルミ板に薬剤を塗った版材にレーザーで焼き付けます。製版工程では全工場で見像液を使用しないプロセス版を使用することで、産業廃棄物を削減する取り組みを行っています。



2. 印刷工程

印刷機（輪転機）の回し始めなどに出る、製品とならない新聞（損紙）や、家庭から出る古新聞は回収され、新聞用紙の原料としてリサイクルされています。新聞用紙には回収された古紙が60%～100%含まれています。

また、印刷で使われた版も回収され、アルミの原料としてリサイクルされています。



3. 発送工程

印刷された新聞は束にされ、フィルムで包みバンドで縛ります。これをトラックで販売店に運びますが、フィルムとバンドは販売店から回収され、リサイクルされています。

また、新聞の輸送には多くのトラックを使いますが、ハイブリッド車やバイオディーゼル車の導入、停車中のアイドリングストップなど、環境負荷を軽減する取り組みを行っています。



3. 印刷技術の向上と環境

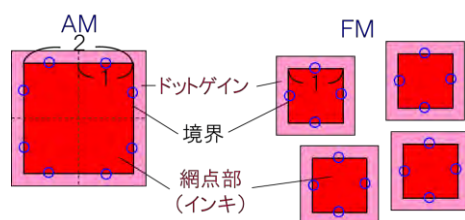
技術センターは、印刷技術向上を目的に新技術開発や研究を行なう部門です。この中から生まれる技術やアイデアは、朝日新聞社、朝日プリンテックで印刷される刷り物に採用され、環境面でも大きな貢献を果たしています。

1. FM スクリーン

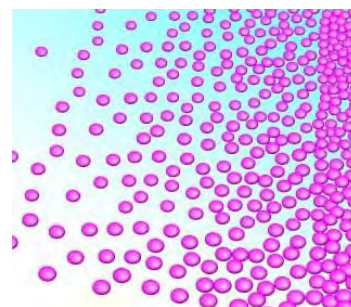
印刷に用いる版には、インキが乗る画像部と乗らない非画像部の二値で表現した画像が描画されます。この画像は、「スクリーニング」と呼ばれる画像処理を用いて生成します。一般的に多く使われる AM スクリーンは、規則正しい間隔に並んだ網点の大小で濃淡を表現しますが、朝日新聞が採用している FM スクリーンは微小な網点の粗密で濃淡を表現します。FM スクリーンを採用することにより、新聞印刷で高精細（細かな印刷部分まで精密）に、かつ滑らかな階調表現を実現しています。

高精細印刷を採用することで、環境負荷も軽減しております。印刷された網点の周囲には、ドットゲインと呼ばれる現象が発生します。ドットゲインとは、データ上で想定した濃さよりも印刷物の色が濃く見える現象を言います。ドットゲインの量は網点の周囲長に比例して濃くなりますので、スクリーニング処理を行う際に、濃くなる比率を見越して網点の量を減らしデータ上で想定した濃さに合わせます。このため網点の数を少なく調整しますので、インキ量も少なくなります。

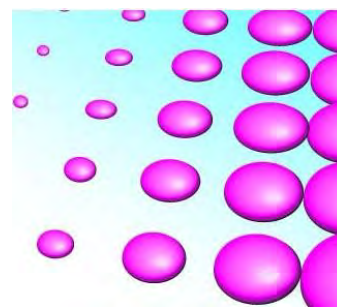
インキの原料には顔料・樹脂・溶剤などの環境負荷の高い物質が含まれており、インキ量の削減は環境負荷軽減の貢献に繋がります。



FM は周囲長が長い分、ドットゲインが大きくなります（模式図）



FM スクリーンの網点

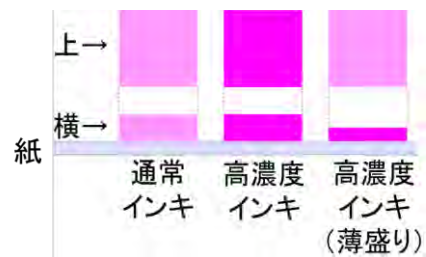


AM スクリーンの網点

朝日新聞カラー面の FM スクリーンは、2011 年 9 月に最小網点が $30\mu\text{m}$ から $21\mu\text{m}$ の方式に変わりました。 $21\mu\text{m}$ の大きさの網点は新聞では製版能力の限界値であり、高品質と環境負荷軽減の両立を新聞業界の最高レベルで達成しています。2022 年 5 月からはモノクロ面も FM スクリーンを採用し高精細化しております。

2. 高濃度インキ

高濃度インキは着色顔料の量を増やしており、同一体積量の場合は従来インキより濃く印刷されます。これを従来インキと同じ濃さに合わせることでインキ量を抑制し、環境負荷を軽減しています。メーカーの輸送重量も軽減され、輸送トラックのCO₂排出量削減にも貢献します。高濃度化は、多色インキ・墨インキとも全工場ですべて完了しています。



高濃度インキによる使用量削減

3. 用紙の軽量化

高精細 FM スクリーンや高濃度インキの採用で、印刷に必要なインキ量が減らせることで、裏側の図柄が表側に見えてしまう「裏抜け」という現象が軽減されます。「裏抜け」が軽減されるため、用紙の原料となるパルプ量を減らし用紙を更に薄く軽くしています。パルプの削減は貴重な森林資源の保護に繋がり、輸送重量の削減は、輸送トラックのCO₂排出量削減に貢献しています。

4. プロセスレスプレート

新聞印刷で使われる版材は、露光後に現像、水洗して非画像部の感光層を除去し、保護のためのガム液を塗布するという工程を経るのが一般的でした。朝日プリンテックでは、現在、印刷機のインキで非画像部の感光層を除去することにより環境負荷が高い製版作業での現像液、ガム液が不要となるプロセスレスプレートを採用することで環境負荷の軽減に貢献しております。

5. ローラ再生装置

輪転機に大量に使っているゴムローラは、経時変化により硬化、収縮、表面への親水性物質の固着といった現象が発生し、機能が果たせなくなります。これまでは定期的にローラを交換して、メーカーにゴムの巻き替え作業を発注していました。技術センターは、朝日新聞社の協力を得てローラ再生装置を開発しました。薬液処理によってローラの硬度と径を回復し、表面に堆積した物質を除去することにより、ローラを巻き替えに出すことなく、再使用出来るようになります。巻き替えに出したゴムローラの古いゴムは、取り除かれてメーカーの産業廃棄物となりますが、ローラ再生装置を使用することで、廃棄物の削減に貢献します。



ローラ再生装置外観

6. ブランケット復活装置

オフセット輪転機で印刷するためには、版材の描画された部分に着いたインキをブランケット（ゴムの板）に転写し、ブランケットに転写したインキを用紙に再転写させ印刷します。この中で使用されているブランケットですが、印刷の品質を維持するためには数か月での交換が必要となります。技術センターは、朝日新聞社の協力を得てブランケット復活装置を開発しました。交換時期を迎えたブランケットをコーティングすることで、劣化した印刷品質を復活させるのです。今まで交換後、廃棄されていたブランケットが長間使用できるようになり、ブランケット製作、納品輸送に係るエネルギー、廃棄物の削減に貢献しています。



ブランケット復活装置外観

4. 環境コミュニケーション

● 築地工場

中央区まちかどクリーンデー

昨年に引き続き、2023年11月13日（月）に地域社会貢献活動の一環として「中央区まちかどクリーンデー」を実施しました。

中央区では平成3年度から地域の環境美化とリサイクル運動を促進する目的で「クリーンデー（区内一斉清掃日）」が実施されています。

今年度も中央区から指定された日とは別の日での参加となりましたが、地域の清掃活動に協力することが出来ました。

当日は、13時15分に朝日新聞東京本社前をスタートして、本社周辺の歩道や植え込み、浜離宮側の側道や、東京メトロ築地駅周辺等、約30分間清掃活動を行いました。

築地工場の従業員その他、総務部、経理部、技術C、技術業務室の方々もあわせ、総勢16人参加いただきました。それぞれが思い思いの方向に分散し、煙草の吸い殻、空き缶、ペットボトル等、多くのゴミを回収しました。今年は不法投棄されたタイヤも回収しました。

回収した全てのゴミは築地工場に持ち帰り分別して廃棄しています。

来年度も築地工場の環境活動として継続して行きたいと思います。



新江東清掃工場、埋立処分場の見学

昨年度までコロナ禍で中止していた社外見学を、今年度再開することにし、東京都環境公社主催の新江東清掃工場と埋立処分場の見学に参加しました。

築地工場から5名の参加に留まりましたが、ゴミの回収、分別から焼却されるまでの工程と、埋立処分場の現場を見学し、ゴミの分別や少量化の重要性を感じるとともに、東京湾の埋立処分も限界が近づいていることに驚かされる等、とても有意義な見学となりました。

社外の見学は、普段の環境活動への意識付けとして重要な活動です。来年度はより参加者を募り実施したいと思います。



●川崎工場

工場周辺清掃

工場周辺清掃は QC 活動の一環として、QC5S 担当が 21 年度から行っています。23 年度は 5 月 22 日（29 名参加）と 11 月 23 日（19 名参加）の 2 回、工場周辺清掃を実施しました。

清掃活動時は、参加者を 4 班に分け工場西側の尻手黒川線沿いと、南側の市道 12 号線沿いを清掃範囲としています。

道路沿いの清掃活動を行う班には監視役をおき、歩行者や自転車、通行車両に十分な注意を払って作業にあたりました。

11 月の工場周辺清掃当日は天候に恵まれ日差しもあり暖かく、まさに清掃日和でした。約 20 分間と短い活動時間ではありましたが、精力的にゴミ拾いをした結果、空き缶・ペットボトルなど多くのゴミを拾い集めることができました。工場周辺清掃活動は、来年度以降も継続して活動していく方針です。

また、今後は川崎市内全域で実施される「市内統一美化活動」への参加など、地域に根付いた活動も視野にいられていきます。



廃棄物処分場見学

2024 年 3 月に川崎工場環境委員会事務局長と環境管理責任者の 2 名で、千葉県袖ヶ浦市にある中間処理業者の「(株) ダイセキ千葉事業所」の視察を行いました。

川崎工場はダイセキに廃インキ及び廃油の回収・処理作業を委託しています。

ダイセキでは回収した廃油に含まれる混合物や水分を除去、再生重油化しており、再生重油化が困難なものに関しては、補助燃料に加工するなどして、約 96～98%のリサイクル率を達成しているとの事でした。

前回視察時よりもドラム缶置き場が拡張されており、老朽化した事務所棟を駐車スペースに移転する計画もあるなど、今後の事業計画についても少しお話を伺うことができました。また、安全や化学物質リスクアセスメントについても意見交換することができ、有意義な視察となりました。

今回の視察で、川崎工場から回収された廃インキが適切に処理されていることが確認出来ました。



●船橋工場

船橋市きれいなまち活動

船橋市が主催するゴミ拾い活動に参加しました。この活動は年2回（5月と11月）船橋市内全域を一斉清掃し、きれいなまちにしていこうという取り組みです。春は「クリーン船橋 530（ごみゼロ）の日」、秋は「船橋をきれいにする日」という名称で活動が行われます。船橋工場では例年この活動への参加を続けています。23年度は5月に17名、11月は16名と昨年を上回る参加がありました。



《出発前に記念撮影：5月》

「工場周辺」と「国道357号線・日の出交差点付近」を中心に散乱するゴミを回収しました。5月の「ごみゼロの日」は気候もちょうどよく人通りも多くみられ、落ちているゴミもバーベキュー後のゴミなどコロナ禍以前の生活が街に戻っている様子でした。また11月の「船橋をきれいにする日」は気温がぐっと下がるこの季節ですが、天気にも恵まれ汗ばむ陽気となり、ゴミを拾う手が各々進んでいる様子がうかがえました。



《ゴミ拾い風景》

幹線沿いには相変わらず「たばこの吸い殻」、「飲料のビンや缶、ペットボトル」が多く見られました。

今後も身近な環境活動、社会奉仕活動として活動をしていきたいと思っています。

環境エコプロ 2023 視察

12月7日東京ビッグサイトにて開催された展示会「環境エコプロ」に環境事務局3名で参加しました。

エコプロのホームページを事前に確認したところ、CO₂見える化、EV 充電設備、省エネ空調、LED 照明、太陽光、蓄電池、断熱材、遮熱塗料などのテーマを扱った会社が出展しているとの事で、環境に関連するものを含め船橋工場で生かせるものがあるのではという期待を持ちつつ見学に臨みました。

コロナ禍以前は、定期的に技術担当メンバーで機械や工具に特化した展示会に参加することが多かったのですが、それらと比較すると今回見学した展示会は、より一般向けの雰囲気を感じました。特に社会科見学と思われる小中学生の姿が多く、子供達が楽しみながら環境について学べるような作りのブース目立ちました。その他では、環境にやさしい材料を使用した製品はもとより、本来廃棄する部分を使用する事で無駄をなくすことテーマとした製品を展示したブース、生物多様性をテーマにした飲食物の試飲・試食・販売を行なっているブース等が印象的でした。



●名古屋工場

北名古屋市中之郷自治会ごみゼロ運動（5月28日実施）

コロナの分類が今月から5類になり、名古屋工場からは次課長会メンバー中心に9名が参加しています。地域住民の方と一緒に中之郷八幡社に集まり、自治会長の挨拶後、割り振られた地区のゴミ収集を行います。名古屋工場メンバーは、昨年と同じく工場周辺を広範囲に渡りゴミ収集を実施しました。道路脇に捨てられたペットボトルや空き缶、たばこの吸い殻などを分別しながら拾い、また工場周辺の除草もあわせて行いました。



ごみゼロ運動

工場周辺清掃（9月14日、3月15日実施）

工場周辺清掃については、奇数月の次課長会開催日の実施で、熱中症の危険がある真夏や寒さの厳しい冬季などを除く年4回を予定していました。あいにく雨などの天候不良による中止もあり実施できたのは2回でした。以前は参加者が主に次課長会メンバーとなっていました。23年度は5S活動の一環として出来る限り多くの社員に参加してもらうよう呼びかけました。9月13日の参加者は20名です。3月15日は別刷りがあり現場のメンバーが参加できず、次課長メンバー主体の6名でしたが、来年度も年4回開催を予定とし、多くの社員に参加してもらえるよう呼びかけをします。時間は14時から20分程度を目安に計画しています。

北名古屋市五条川河川敷清掃（10月28日実施）

この清掃活動は「ふるさとの川をごみから守ろう」をスローガンに、市内を流れる五条川の約 4.5Km のエリアを 6 つに分けて自治体毎に清掃するものです。名古屋工場からは7名が参加しています。米野地区エリアが分担となり、集合場所の米野水辺公園から堤防敷を進み、住宅街を抜け近くの幹線道路あたりまでの区間を担当しました。常日頃からきれいに清掃、維持されているようで、目立った大きなゴミなどは無く、吸い殻やペットボトル等の小さなゴミを回収しました。桜並木が美しい五条川沿いは、常日頃から綺麗に保たれていることに感心した1日となっています。



五条川河川清掃

● 阪神工場

夏休み親子企画

＜公文書写「お名前をきれいに書こう 公文書写教室指導者よりワンポイントレッスン」とメッセージカード作り＞

阪神工場では、2008 年から夏休み親子企画を開催しています。2023 年度については 8 月 8 日開催。初の試みとして、公文書写さんとコラボし、工場見学後にちぎり絵カード作りを行いました。公文書写教室の指導者 4 名に来場していただき、お客様がお名前を書いてアドバイスをを行うコーナーと、新聞を使用してちぎり絵カードを作成するコーナーを開催。イベントに参加された方も、公文スタッフさんも楽しんでいただきました。



【イベントの様子】



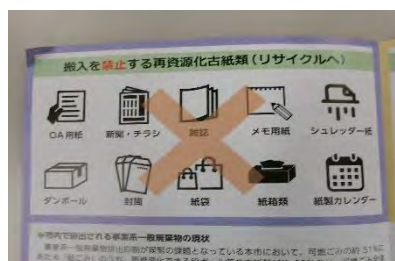
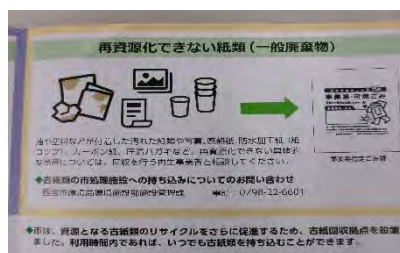
※夏休み親子企画の参加人数は 8 組 28 名

外部コミュニケーション

＜西宮市事業系一般廃棄物研修会に参加＞ 【3名参加】

2024年2月16日に西宮市勤労会館ホールで行われた、西宮市役所環境事業部による西宮市事業系一般廃棄物研修会に参加してきました。西宮市よりゴミの排出量が減少していないのが現状で、全国や県平均を上回っている状況のなか、市が定期的に実施している調査では、事業所から排出される「可燃ごみ」に紙類が全体の約42%の内、可燃な物が28%を占めている事が判明し、分別排出が十分に徹底されていない状況が続いていると研修会で報告がありました。

※ 阪神工場では古紙や新聞を梱包するバンド(「PPバンド」といいます)などをリサイクルしていますが、より一層の分別を行い再資源化できる物は、リサイクルし温暖化防止に少しでも役立てるよう、努力して行きたいと思います。



地域の清掃活動や防災訓練に参加

阪神工場は、周りを海に囲まれた鳴尾浜工業団地(兵庫県西宮市)に立地しています。同工業団地には連絡会が設置されており、阪神工場は 2006 年の竣工当初から同連絡会に加入しています。連絡会の主な活動は、綺麗な鳴尾浜を維持するための一斉清掃活動を行っています。2023 年度の清掃活動は、5 月と 11 月に行いました。また、防災訓練は、年 1 回行われますが阪神工場は毎回参加しています。海浜エリアならではの地震による津波が発生した想定で防災訓練が行われ、近隣の高い建物に分かれ垂直避難を行います。2023 年度は、10 月 25 日実施され 11 名が参加しました。



環境教育

鳴尾浜地域清掃

※2023 年度鳴尾浜地域清掃の参加人数

- ・ 5 月 16 日 12 名
- ・ 11 月 7 日 7 名



●北九州工場

北九州工場周辺の清掃活動

北九州工場は市のクリーンアップ協議会へ入会している関係で、年3回（8月・12月・3月）のクリーンアップ一斉清掃に参加しています。今年度1回目の8月9日は、台風6号の接近により中止となりましたが、第2回の12月6日は予定通り実施されました。今年は朝・夜と昼間との寒暖差が大きく、朝9時頃でもかなり冷え込むため、全員ジャンパーを羽織って北九州の玄関クリーンアップ一斉清掃に参加しました。白石工場長はじめ、朝日建物管理さん、そして今年も、苅田工業高校のインターンシップ生3名も参加してもらい、総勢14名で、きれいな街活動の一環として工場周辺・近隣のゴミ拾いを行い、今年も師走の活動が無事終了しました。



冷え込み厳しい中ご苦労さまです。



インターンシップ生も朝一番から協力して頂きました。



朝日建物管理さん
ご協力ありがとうございます。



師走の成果です。

今年度2回目の活動が3月8日に実施されました。今年は前日から当日の朝方まで雨が降り、風も吹き冷え込んでいました。今回は3月にしては気温が低い方だったと思いますが、他の地元の企業も（ちょっと少なめ）一緒に清掃活動に励んでいました。今回も白石工場長をはじめ、朝日建物管理さん4名、以下総勢11名で、きれいな街活動の一環として工場周辺・近隣のゴミ拾いを行い、今年度全ての活動を無事終了する事が出来ました。ご協力ありがとうございました。



管理担当さん、事前準備感謝です。



環境事務局長は
夜勤明けでお疲れ様です。



近隣の企業も清掃活動に励んでいます。



ご協力ありがとうございました。

●福岡工場

川清掃（水城地区自治会一斉清掃）

7月20日（木）、恒例行事の福岡工場周辺・川（用水路）清掃を、12名（含むATK2名）で行いました。6月の大雨による延期で例年より1か月遅れとなったためか、人の背丈を超えた樹木といえる雑草も生えており鋸と草刈り機を武器に格闘、草刈・草むしりとゴミ拾いを行いました。連続した豪雨のせいか、近年の美化意識向上の賜物か、用水路にはほとんどゴミはなく、曇りも幸いして心地よい汗をかく程度で順調に活動を行うことができました。



今年も雑草の勢いがええの～



お隣との境も綺麗に



用水路脇も丁寧に



参加者でハイポーズ！



清掃前



清掃後

1月15日（月）、冬恒例行事の工場周辺清掃を6名で行いました。12月実施予定でしたが大雨による順延で1か月遅れの実施。近年の美化意識向上と周辺の区画整備が進んでいるためなのか、周辺道路・側溝・農地周辺・河川公園等にもほとんどゴミはありませんでした。快晴となり澄み切った青空のように清々しく環境活動を行うことができました。



清掃前、参加者でハイポーズ！



お隣さんの前も綺麗に



金網越しも届くところまで



小学校周りの小さなゴミも



青空と工場をバックに記念撮影？



今回は最少量のゴミでした

5. 2023 年度活動報告

● 築地工場

省エネルギー（目標：2022 年度比±0.0% ⇒ 達成）

23 年度の CO₂ 総排出量は 1,663.2t-CO₂ でした。前年度実績 1,913.5t-CO₂ と比較し -250.3t-CO₂ で 13.1%減少し年間目標を達成しました。

電気使用量は年間累計 2,996,810kWh でした。前年度実績 3,447,822kWh と比較して -451,012kWh で 13.1%削減となっています。

23 年度は、注文部数の減少が CO₂ 総排出量、電気使用量に大きく影響し、生産動力が 16.0%、照明コンセント使用電力量が 5.7%減少しています。

昨年度に引き続き、技術担当による「エア漏れ撲滅キャンペーン（エア漏れ補修のこまめな実施）」、作業後の現場の消灯などの節電活動を実施しています。

省資源（目標損紙率 2.63% ⇒ 未達成・目標損版率 0.12% ⇒ 達成）

（目標損紙部数 上期 9,456 部 ⇒ 達成、下期 8,156 部 ⇒ 達成）

23 年度の損紙率は、目標損紙率 2.63%に対して累計実績 2.78%で年間目標を達成できませんでした。注文部数の減少が大きく影響していますが、23 年度は例年より異動者、新入社員等、輪転機の操作に不慣れな方が増えたことで、立ち上げ損紙が減らせなかったことも要因の一つとなっています。

月間損紙部数は、上期は目標（月間平均）9,456 部を毎月下回り、上期平均では 8,156 部で目標を達成しました。下期は、上期実績が目標部数となりましたが、毎月目標を下回り、平均で 7,949 部となりました。

23 年度の損版率は、目標損版率 0.12%に対して累計実績 0.08%で年間目標を達成しました。人的損版枚数の年間目標 108 枚に対して 23 年度実績 74 枚で工場目標を達成しました。

廃棄物（目標：2022 年度比▲6.02% ⇒ 達成）

23 年度の廃棄物総量は 35,201 kg でした。目標廃棄物総量の 42,350 kg と比較し、7,149 kg、16.8%減少して年間目標を達成しました。

主な減少要因は、1 セット減による廃インキ 2,340 kg の減少、9 月に全 CTP の無処理化が完了したことにより主要廃棄物である CTP 廃液 2,920 kg の減少、コロナにより中止していた軍手の再利用を再開し廃軍手 2,300 kg の減少です。

23 年度のリサイクル率は、毎月平均 91%以上を維持しています。

引き続き産業廃棄物の削減に向け対策を講じて参ります。

●川崎工場

省エネルギー（目標：2022年度比+0.09% ⇒ 達成）

2023年度のCO₂削減目標は、前年実績比0.09%増の3,498.4t-CO₂に設定しました。23年度のCO₂排出量は3,456.3t-CO₂で、前年比-44.8t-CO₂（-1.2%）の削減を達成し、目標をクリアしました。2022年度は蒸気ボイラー更新及び浴室工事の影響でガスの使用量が少なく、その工事が終了する2023年度はガス使用量の増加を見込んだ目標設定（147,200 m³）としましたが、冬場の気温の低さなどもあり、ガス使用量は想定を超える結果（154,178 m³）となりました。しかし、巻取使用連数の減少や熱源工事による電気使用量の削減効果により目標を達成することができました。

太陽光発電装置の年間発電量は、21年度（110,565kWh）、22年度（113,505kWh）、23年度（124,840kWh）と毎年順調に発電ができています。

省資源（目標損紙率：1.81% ⇒ 達成・目標損版率：0.14% ⇒ 未達成）

（目標損紙部数 上期 8,128部 ⇒ 達成、下期 7,889部 ⇒ 達成）

23年度の損紙率は目標損紙率1.81%に対し、累計実績1.80%と年度目標を達成しました。8月に1.94%、9月に1.86%と大きく成績を落とし、目標達成が危ぶまれましたが、紙流れや頭切れ等、損紙要因を的確に分析し対策を取った事で以降は改善され順調に推移しました。

23年度の損紙部数は上期の目標8,128部に対して実績7,889部となりました。上期実績を目標値とした下期は、実績7,378部となっており、通年で目標をクリアすることができました。

23年度の損版率は目標損版率0.14%に対し、累積実績0.32%と年度目標を達成できませんでした。単月目標をクリアできたのも2月の1回のみと厳しい結果となりました。特に8月の単月損版枚数176枚をはじめ、損版枚数が50枚を超える月が6回あり、大きく損版率を押し上げました。

損版の主要因上位3つは、CTPエラー142枚、装着ミス114枚、メーカーメンテナンス後のテスト製版112枚となっています。24年度はメーカーメンテナンス後のテスト製版枚数を損版率の集計から除外し、目標数値も見直す一方、装着ミス者のOJTを3枚毎にするなど人的損版の低減に向け取り組んでいきます。

廃棄物（目標：2022年度比▲23.8% ⇒ 達成）

23年度の廃棄物削減目標は、前年実績比23.8%の31,490kgの設定でした。23年度の廃棄物総量は26,377kgで、前年度実績41,300kgと比較して-14,923kg減、36.1%の削減となり、目標を達成しました。

廃棄物削減の主な要因としては、ブランケット洗浄プログラムの見直しにより、

ブランケット洗浄用不織布の廃棄量が－1,910kg、ローラー洗浄装置の両側供給化による溶剤使用量の削減に伴い、廃液量も少なくなり廃インキの回収量が－3,910kg、生産排水に直放流となったため汚泥の引き取りがなくなり、－9,700kg となり、大きな削減結果につながりました。24 年度以降も引き続き廃棄物の削減に取り組んでいきます。

●船橋工場

省エネルギー（目標：2022 年度比＋1.24% ⇒ 未達成）

2023 年度の CO₂ 排出量目標は、2022 年度の排出量実績＋1.24%の 2913.3t-CO₂ で設定し 1 年間活動に取り組んできました。結果は 3.7%の 3020.5t-CO₂ と目標を達成することができませんでした。

CO₂ 排出量が増えた主な原因は、夏期の猛暑による気温の上昇による冷水熱源の使用量増加と CTP 更新による空調の 24 時間管理の影響が考えられます。

① 夏期気温上昇の影響

6 月から気温上昇による HPC-1、AHU、PAC の稼働が増え建物動力が増えました。

特に 8 月～10 月は 22 年度比で平均 2℃高く CO₂ 排出量は平均で 12.6%増となりました。

② CTP 更新に伴い CTP 室の空調を 24 時間化した影響。

更新前は朝刊作業終了後に空調を停止し、翌朝再稼働していましたが、CTP 更新に伴い刷版が無処理化されたことにより、温度、湿度、結露対策など従来より精緻な空調管理を行う必要があると考え、CTP 室の空調を 24 時間化しました。これにより、CTP を更新する 23 年 8 月以降は電力は 8,000kWh/月、ガスは 1,200 m³/月の増加を見込みました。

省資源（目標損紙率：1.89% ⇒ 未達成・目標損版枚数：120 枚 ⇒ 達成）

（目標損紙部数 上期 4,655 部 ⇒ 未達成、下期 4,891 部 ⇒ 達成）

1：損紙率：目標損紙率 1.89% ⇒ 未達成

損紙率は目標損紙率 1.89%に対し、年間累計実績は 2.00%となり目標を達成することができませんでした。

その理由として、①注文部数の減少②23 年 1 月に発生した F40 セット HS 折機破損に伴う GS 転送③新 H 液に起因する汚れやノズル詰まりの 3 点が大きな要因として考えられます。①については工場としての対応は難しい部分がありますが、②については 24 年 3 月に HS 折機の修理が完了したことで GS 折機への転送の必要がなくなり、良化が見込まれています。③については 23 年 11 月に H 液を従来品に戻したことにより良化しています。

2：損紙部数：上期目標 4,655 部⇒未達成 下期目標 4,891 部⇒達成

朝刊損紙部数も上期は損紙率と同様の理由で、目標達成なりませんでしたが、しかし 10 月以降は良化し、目標部数が 4,891 部に変更されたこともあり下期はすべて達成となっています。

3：人的損版：目標 10 枚／月（年間 120 枚）⇒達成

年間 106 枚で達成となりました。

6 月にパノラマの製版ミス（2W 版のところを誤って 1W 版で製版し、損版 15 枚）、が目立つところですが、その他は概ね順調に推移しています。

廃棄物削減（目標：2022 年度比+6.99% ⇒ 達成）

2023 年度の年間廃棄物削減目標は 2022 年度比+6.99%の 48,900kg で設定しました。取組の結果、排出総量は 45,340 kg となり、目標に対して 3,650kg の削減となりました。廃インキを 2 月に回収しましたが 10 本（約 1,700kg）を次年度に繰り越したことで、混合廃棄物についてはペスターブラシなど従来処分を依頼していた処分場の受け入れができなくなった関係で別の処分場に依頼することになり、処分が次年度に繰越となったため今年度の排出量が抑えられました。

●名古屋工場

省エネルギー（目標：2022 年度比▲1.08% ⇒ 達成）

23 年度の CO₂総排出量は 1,922.83t-CO₂。前年実績と比較して-61.02t-CO₂の結果でした。22 年度比で-3.08%となり目標を達成しています。

電力使用量は累計 3,189,624kWh で 22 年度比-3.78%となりました。各設備の電力使用量内訳としては生産機器-11.25%、空調機器-1.81%、生産電灯-4.46%、一般電灯 2.27%増加となっています。

23 年度は生産数量が前年度比-12.98%と減っており、それに伴い生産設備の電力量も減っています。対して照明設備の生産電灯の削減量が少ないことに加え、一般電灯は微増となっています。これらの照明電力使用量については、別刷り印刷物増加に伴う昼間の点灯時間増加や職場環境改善のための点灯対応などが増加の要因と推測されます。現在、各所照明の LED 化を進めていますが、今後は安全面も考慮のうえ、職場環境改善を優先しながら監視を継続していきます。

空調機器電力については-1.81%の微減となっています。こちらは 4 月から 7 月までは各月とも減少傾向でしたが、特に 8 月から 10 月までは猛暑の影響もあり、それ以降は前年同月とほぼ変わらない状況が続きました。空調機器は前述の照明同様、職場環境改善の他にも季節要因による影響も大きく、現状以上の削減が厳しい状況ですが、昨年同様「働きやすい職場づくり」を目指し、省エネとのバランスを考慮

しながら対応していきます。

ガス使用量は累計 73,359 m³となり、前年度比 5.93%増加となっています。ガス使用量はほぼ毎月、前年同月より減少傾向となっており 2 月までの累計では -3.20%で推移していました。しかし年度末の 3 月に限っては、平均気温が前年同月より 4℃低く、3 月単月の使用量が 142.3%増となったことが大きく影響しています。工場のガス使用設備が温水ヒーターと吸収式冷温水発生器のため、気温や湿度といった外的要因に影響されてしまうことは避けられませんが、年間を通しての使用量推移は例年と変わらないため、今後も現状維持を目標に監視を継続していきます。

その他、トピックスとして 2024 年 9 月から空調設備の更新工事が始まります。

現時点では、更新の対象設備や規模等を精査している段階ですが、将来的な省エネを考慮し、環境面やメンテナンス性に優れた設備を提案していきます。

なお更新工事に掛かる期間は 3 年間で予定しています。期間中は工事に伴う空調電力の増減も予想されます。その都度、臨機応変に対応しながら環境負荷軽減に努めます。

省資源(目標：損紙率 2.09% ⇒ 未達成・目標損版枚数：90 枚以下 ⇒ 達成)

(目標損紙部数 上期 4,541 部 ⇒ 達成 下期 4,260 部 ⇒ 達成)

3 年度の損紙率は 2.12%となり目標を達成できませんでした。目標未達の要因は、注文部数減少が大きく影響しました。対して目標損紙部数は累計 4,190 部と達成していることから、注文部数の減少が大きく影響していることが分かります。来年度についても想定注文部数より実際の注文部数が下回った場合は、目標損紙率が未達の可能性があり、注視していく必要があります。

損版率は今年度から損版枚数に変更し人的損版枚数を目標としました。今年度目標は年間 90 枚以下として 46 枚で目標を達成しています。昨年度人的損版枚数は 76 枚でしたが、今年度は大幅に減少しています。これは、新台の版着け習熟度が向上し版着けによる損版が減少したことが理由です。

廃棄物(目標：2022 年度比▲35.72% ⇒ 未達成)

23 年度は前年度比 -23.47%と削減目標に対しては未達となっています。

昨年度の生産排水処理装置停止に伴い、今年度より処理時に発生する汚泥回収が無しとなったため、廃棄物総量としては大きく削減されています。ただし、汚泥を含む産業廃棄物は相当量削減されていますが、対して一般廃棄物は増加傾向となっています。中でも可燃ゴミの増加が目立ちます。これは輪転機整備時の床汚れ防止や部品脱着に伴うボルト等の脱落防止のための養生、また 5S 活動である設備一斉清掃時の養生などでワンプを再利用していること、含有物の関係で感熱紙を可燃物扱

いへ変更したこと、現状の規格に合わない古い ISO 関連資料を処分したことなど要因はいくつも考えられます。いずれも運用上避けられない部分も多くありますが、今後は日常の使用量と廃棄量を注視しながら、できる限りの削減に努めます。

リサイクル率は目標 63.88%以上に対し、57.1%と目標達成できませんでした。要因はリサイクル対象外の可燃ゴミが増加していることによります。

24 年度に向けて

23 年度内部監査で指摘を受けた緊急事態訓練の確実な実施を行います。

また、「化学物質リスクアセスメント」の実施に伴い重要性が高まる SDS（安全データシート）の情報管理と定期的な更新作業の実施を行います。

省資源での目標損紙率については注文部数に注視し、損紙削減に向けて継続的に取り組む必要があります。継続課題として、環境活動における手順書等のスリム化。データ整理作業を定期的な実施を行います。

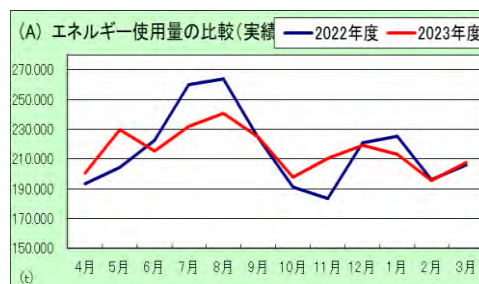
24 年 3 月末と 9 月末に朝日オリコミ名古屋が段階的に旧配送センターへ移転するのに伴い、工場全体としてエネルギー使用量の増加が見込まれます。また、24 年 9 月から空調設備の大規模な更新工事が開始されます。工事予定期間は 27 年 9 月までの 3 年間の予定で、期間中は関係する空調設備や熱源機器の稼働にも影響します。工事実施時間帯の工場内照明点灯や空調稼働など、電気およびガスの使用量増加へつながる可能性もあり、注視していく必要があります。

朝日オリコミ名古屋の移転に伴う、廃棄物の増加についても注視が必要です。

● 阪神工場

省エネルギー（目標：2022 年度比▲0.2% ⇒ 達成）

工場全体の電力およびガス使用量を、CO₂ 換算実績値で 2022 年度より 0.2%削減を目標としました。結果は、2022 年度の実績 2,591.2t-CO₂ に対し、2023 年度は 2,586.943t-CO₂ (-0.2%) で、目標を達成することが出来ました。使用量ベースで見ると、電力は 2022 年度の実績 2,468.174t-CO₂ に対し、2023 年度は 2,455.163t-CO₂ で 13.011t-CO₂ の削減となりました。23 年度は、運転時間のスケジュールを見直した結果が電力の削減になって表れた形となりました。ガスは 2022 年度の実績 123.025t-CO₂ に対し、2023 年度は 131.781t-CO₂ で約 8.756t-CO₂ の増加となりました。（右グラフ=A）



2023 年度の取り組みを継続するとともに、こまめな節電活動を行うことで、電力使用量およびガス使用量を 2023 年度の数値を維持できるように努力します。

省資源（目標損紙率：1.99% ⇒ 未達成・目標損版率0.28% ⇒ 達成）

（目標損紙部数 上期 4,197 部 ⇒ 未達成、下期 4,796 部 ⇒ 達成）

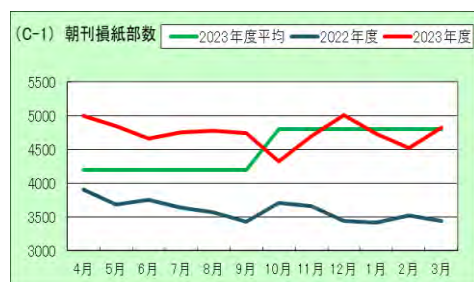
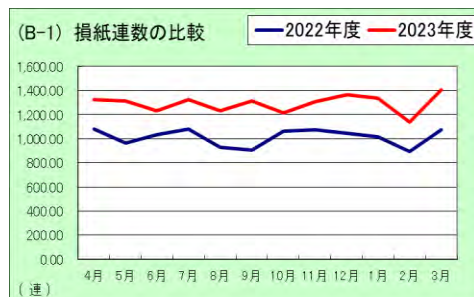
① 損紙を削減する

新聞を印刷する上で避けられないものとして準備作業や紙面汚れなどで新聞として出荷することができない紙(損紙)があります。損紙削減は紙を大量に使用する私たちの重大な使命だと感じております。2023 年度の目標年間損紙率は 1.99% に設定。紙面汚れの早期発見によるトラブル損紙の低減、輪転機の多色機（タワー機）のペースタ（紙継ぎ）を同タイミングで行うことや、輪転機の設備改善等で、損紙発生抑制を図りましたが、損紙連数は 2022 年度の 12,165 連と比較して、2023 年度は、15,509 連と、約 3,344 連増になり損紙連数を削減する事が出来ませんでした。A 巻幅の巻取に換算すると約 47 本相当の増加となります。2023 年度の主な要因は、工程の変更で立ち上げ 9 回から 11 回に増えた事と初版製品の注文部数が約 1,000 部となり選別作業が困難となりました。また、湿し水のテストで汚れが頻繁し、注文連数も減少も相まって目標を達成する事が出来ませんでした。（前頁 グラフ B＝注文連数 グラフ B-1＝損紙連数 グラフ C＝損紙率）

朝刊の損紙部数も設定されており 23 年度上期 4,197 部・下期 4,796 部目標としましたが、結果は上期 4,796 部で下期 4,684 部となり朝刊の損紙部数は上期の目標を達成する事が出来ませんでした。

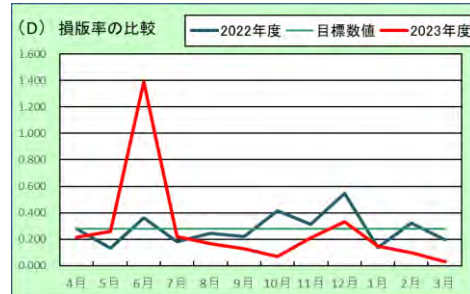
（右 グラフ C-1）

断紙は、22 年度は年間 5 回でしたが 23 年度の断紙回数 12 回となり目標 5 回をクリアすることが出来ませんでした。この結果を受け、損紙部数の削減、断紙回数の低減に向けて取り組みを進めていきます。



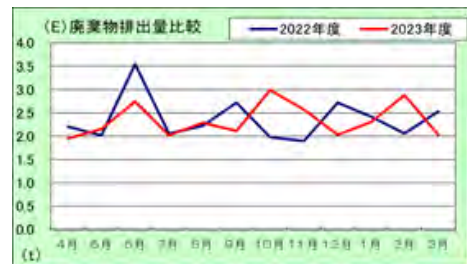
② 損版を削減する

2023 年度の損版率は 0.28% となり、目標の損版率 0.28% 以内を達成することができました。23 年度の主な要因は、6 月に独自受注媒体の印刷でエッジ汚れ（余白分が版で汚れる現象）が多発。エッジ汚れを解消するために版を数十枚と製版したことで損版率クリアが厳しくなりました。輪転機に刷版を装着するために版を曲げることを「ベンダー加工」と呼びます。ベンダー加工の変更でエッジ汚れが解消しました。版運搬中に傷を付けるなどを「人的損版」と呼びます。人的損版を減少させるために業務連絡で注意喚起し目標を達成する事が出来ました。24 年度も損版の削減を目指します。（上 グラフ D）



廃棄物（目標：2022 年度比▲0.1% ⇒ 達成）

廃油、廃プラ、鉄クズ、汚泥など、当工場はさまざまなゴミ（産業廃棄物）を排出しています。22 年度比より 0.1%削減の目標を立てました。結果は、22 年度累計実績値 28,368 トンに対して 23 年度は 28,049 トンと 319 トン（1.1%）と削減し目標を達成する事が出来ました（グラフ E）。「紙に文字を転写する資材」をブランと呼びます。今年度は再生ブランを装着したことで廃プラ削減に寄与することができました。



●北九州工場

省エネルギー（目標：2022 年度比±0.0% ⇒ 未達成）

23 年度の CO₂ 総排出量は 2,382 t-CO₂。前年実績と比較して約 38t-CO₂ 増加となりました。電気の使用量については前年比で 47,250kWh の増加、ガスの使用量についても 6,698 m³ の増加となっています。上水の使用量は 108 m³ の削減となりました。電力については、気温差もありますが、主に昨年より平均湿度が 2~8%高い月が 8 ヶ月あったので冷水負荷が高くなりターボ冷凍機の稼働率がアップしています。また、版間洗浄時（ブラン洗浄）にエア圧低下異常が発生した為、対応として 8 月から 3 月までコンプレッサー制御の設定変更を実施しました。その結果 8 月から 3 月までのコンプレッサー電力量が累計約 30,500kWh 増加となった事が主な要因です。ガス使用量についても電力使用量同様、気温差による影響もありますが、平均湿度が高いため冷温水発生機の稼働率がアップしてガス使用量が増加となりました。上水については日々のこまめな節水を心掛けている結果クリアしています。24 年度は

工程変更に伴い印刷部数増、刷物版増のため生産系動力が 23 年度実績値より増加する見込みですが、工場全体でエネルギーの節減に努めます。

省資源（目標損紙率：2.60% ⇒ 未達成・目標損版率 0.59% ⇒ 達成）

（目標損紙部数 上期 3,299 部 ⇒ 達成、下期 3,145 部 ⇒ 達成）

予算損紙率は 2.60% でした。23 年度も部数減に歯止めがかからず、年度末まで予算損紙率に見合わない注文連数の結果、通期損紙率は 2.73% で目標達成できませんでした。23 年度は部数減を念頭にした損紙部数管理を継続して行い、輪転停止後自動頭合わせプログラムの改善に取り組む等、毎月の損紙部数は削減となっています。上期目標損紙部数 3,299 部に対し通期平均 3,145 部でクリア、下期目標損紙部数 3,145 部に対し 3,029 部でクリアとなりました。23 年度の損版率は、目標損版率 0.59% に対して累計実績 0.38% で年間目標を達成しました。その内人的損版枚数は、90 枚となっています。引き続き改善箇所を模索し、環境負荷を増大させない為にも、無駄な損紙、損版を出さない取り組みを重点化していきます。

廃棄物（目標：2022 年度比±0.0% ⇒ 達成）

14 年度から廃棄物は維持管理としています。23 年度は総排出量で前年比 4,209Kg 削減することが出来ました。昨年度は、廃液タンク内に貯めていた CTP 母液交換時の廃アルカリ、廃酸を廃棄していたことに対して、今年度は廃液が無い為廃液量 3,013Kg の削減となっています。また、北九州工場では、金属くずを全て産業廃棄物処分していましたが、今年度、金属くず扱いの廃モーターやバッテリーなどを分別して、買取業者へ売却することにしました。有価物として売却する事で、221 kg ほどが産業廃棄物扱いではなくなりました。今後も産業廃棄物にあたる金属くずを分別するなど引き続き排出物について監視していきます。

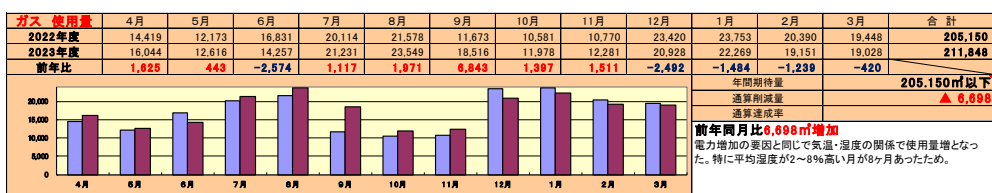
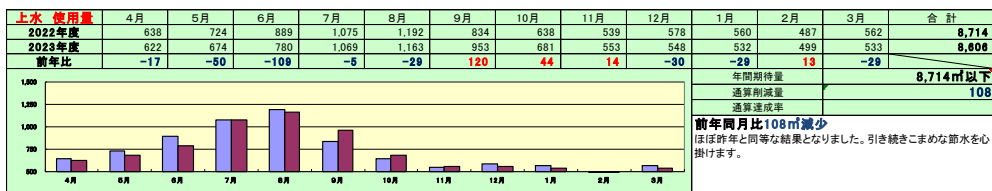
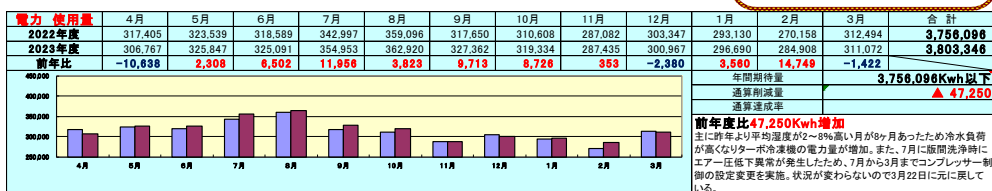
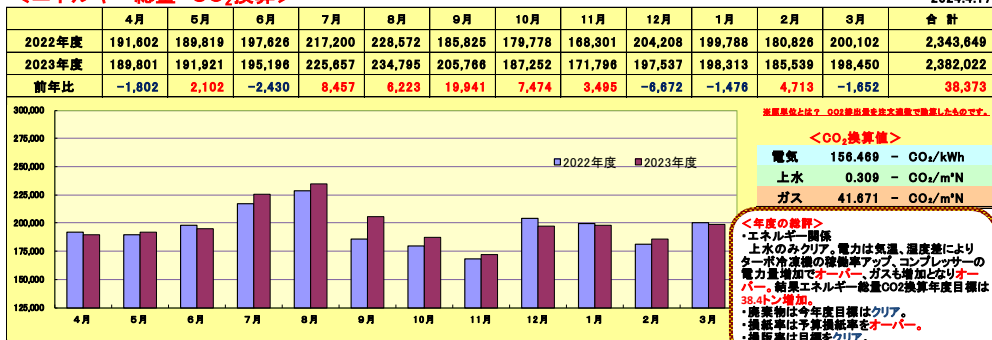
環境活動

プラスの環境活動において、北九州市の「まち美化推進」に加入し 8 月・12 月・3 月実施の市民一斉清掃に参加しています。今年度は 12 月と 3 月の 2 回の清掃活動を実施しました。今回も 12 月にインターンシップ生 3 名が参加し、協力会社を含む累計 26 名で活動を行いました。また、例年の活動として生産設備の美化清掃も実施しました。さらに今年度は、北九州工場から排出する産業廃棄物の処理工程と他社の環境活動に対しての企業努力を参考にするために、産業廃棄物処理場を視察しました。見学者の受け入れについては、感染症の発生状況を見ながら、累計 13 件の 240 名の対応となりました。24 年度も状況次第となりますが、無理のない活動を継続していきます。

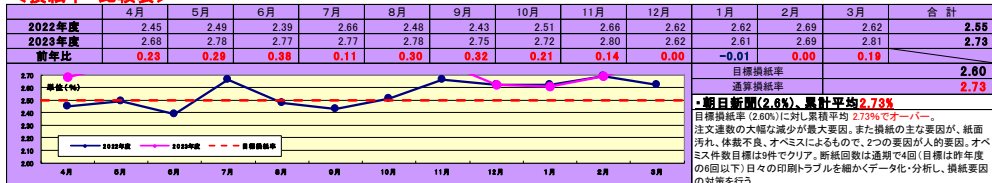
北九州工場 23年度 パフォーマンスNEWS

<エネルギー総量 CO₂換算>

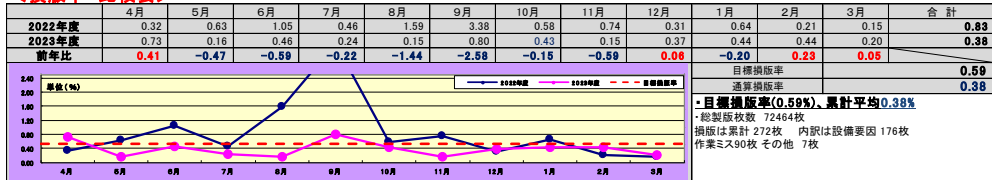
北九州工場環境委員会
2024.4.17



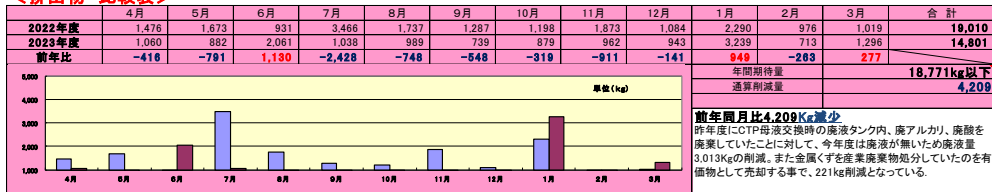
<損耗率 比較表>



<損版率 比較表>



<排出物 比較表>



●福岡工場

省エネルギー（目標：2022年度比±0.0% ⇒ 達成）

23年度CO₂総排出量は1,513t-CO₂でした。前年度実績と比較して5.4t-CO₂、3.44%削減しました。最も大きな原因は、注文連数の減少です。減少したことで、生産系動力の削減に繋がったと推測します。

電気使用量は2,746,330kWhで前年度比84,892kWh、3.00%削減。重油使用量は47,452Lで前年度比4,050L、7.78%削減しました。また、上水も使用量が3,144 m³で前年度比286 m³、8.00%削減しました。

理由は、電力使用量では、部数の減少、頁数の減少により、輪転動力が減少。また、工場内のLED化が進んだことが原因です。重油では、季節切替モードとボイラーローテーションの適正化が寄与しました。

省資源（目標損紙率：2.37% ⇒ 達成・目標損版率0.29% ⇒ 達成）

（目標損紙部数 上期2,117部 ⇒ 達成、下期1,977部 ⇒ 達成）

QC活動で3つのプロジェクトを立ち上げ損紙を削減してきました。まだ、適正数値を絞り切れず継続となっているプロジェクトもありますが、概ね、成果が出たと考えています。また、断紙を3度に抑えることが出来ました。その結果、23年度目標損紙率は2.37%に対して、実績は2.36%で目標を達成することが出来ました。目標損紙部数は、上期目標2,117部を毎月達成し、下期目標は上期実績平均の1,977部となりましたが、下期平均は1,931部で毎月達成することが出来ました。

損版率についても、目標0.29%に対し、実績は0.25%で目標達成することが出来ました。版キズ、作業ミス、製版ミスによる損版は年々減少しています。また、無処理版に変わり、23年度は版キズによる損版が22年度の約3分の1ほどに減少しています。一方、一度に大量の損版を出すCTPトラブルが、6月、12月、2月に、それぞれ、38枚、17枚、43枚出て課題となっています。

24年度も、省資源化へ向けた取り組みを、工場一丸となって頑張ってもらいます。

廃棄物（目標：2022年度比▲20.2% ⇒ 未達成）

23年度廃棄物は、33,432 kgとなり、前年度比では5,490 kg減少しました。この数字は、昨年度の廃アルカリが入った数字を下回ったものなので、実際は、版材を無処理版に切り替えたことにより廃アルカリの引取りが無くなったことで廃アルカリの排出分を除いた数字で比較すると、2,380 kgオーバーしています。

原因は、雑古紙が970 kg、廃油・廃インキが1,460 kg、それぞれ増加となったことです。

雑古紙は朝日プリンテック社受注媒体の印刷時に排出される損紙を売却していま

したが、買取業者が移転したために売却が出来なくなり、雑古紙（排出物）として他の媒体と一緒に排出するようになったためです。

廃油・廃インキは、回収コストは量ではなく回数で支払うため、回収コストを極力減らすために貯めたところで回収をしています。その為、年度変わりの 3 月、4 月、どちらの月で回収するかによって回数に変動があり、2023 年度は 2022 年度より 1 回多く排出していることが原因です。

引き続き、廃棄物の排出をできる限り削減するよう努力してまいります。

環境活動

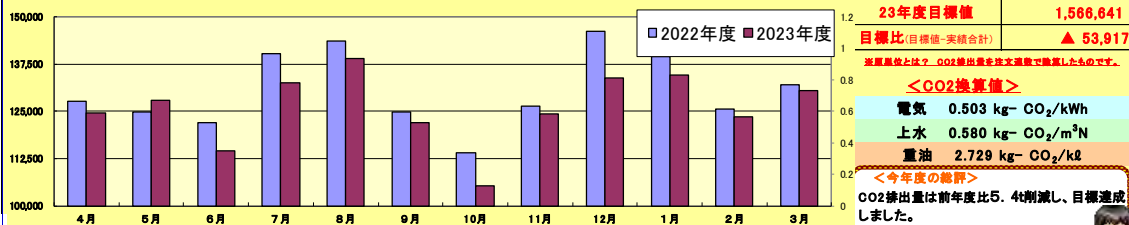
23 年度も 7 月に川清掃、1 月に水城地区一斉清掃に参加しています。今後も、地域の一員として積極的に地域活動に参加してまいります。また、工場見学受け入れや、地域に貢献できる環境活動についても積極的に取り組んでまいります。

福岡工場2023年度まとめ パフォーマンスNEWS

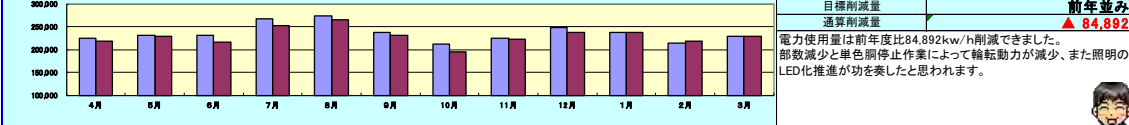
<エネルギー総量 CO₂換算 単位kg>

福岡工場環境委員会
2024.4.10

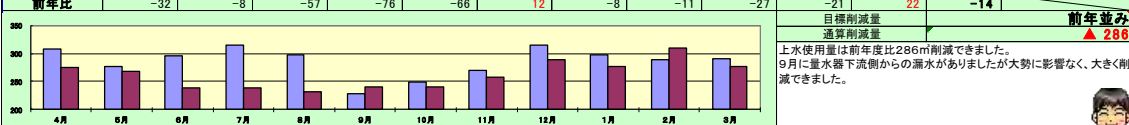
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度	127,556	124,854	122,120	140,197	143,502	124,833	114,063	126,428	146,196	139,429	125,530	131,934	1,566,641
2023年度	124,609	127,870	114,473	132,572	138,984	122,074	105,210	124,210	133,878	134,702	123,679	130,463	1,512,724
前年比	-2,947	3,015	-7,648	-7,625	-4,518	-2,759	-8,853	-2,217	-12,318	-4,727	-1,850	-1,471	-53,918



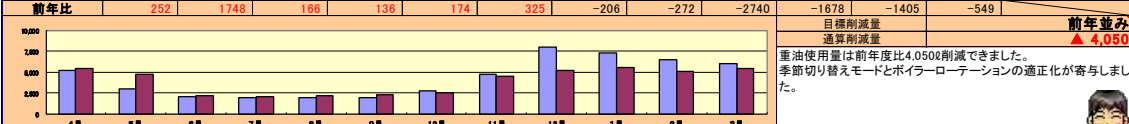
電力使用量kw	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度	225,090	231,690	231,220	267,720	274,260	237,200	211,682	225,250	246,820	237,420	213,730	229,140	2,831,222
2023年度	217,900	228,210	215,180	251,910	264,410	229,940	195,210	222,330	237,230	237,150	217,650	229,210	2,746,330
前年比	-7190	-3480	-16040	-15810	-9850	-7260	-16472	-2920	-9590	-270	3920	70	-84,892



上水使用量m ³	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度	307	276	295	315	298	229	249	269	315	298	288	291	3,578
2023年度	275	268	238	239	232	241	241	258	288	277	310	277	3,144
前年比	-32	-8	-57	-76	-66	12	-8	-11	-27	-21	22	-14	-288

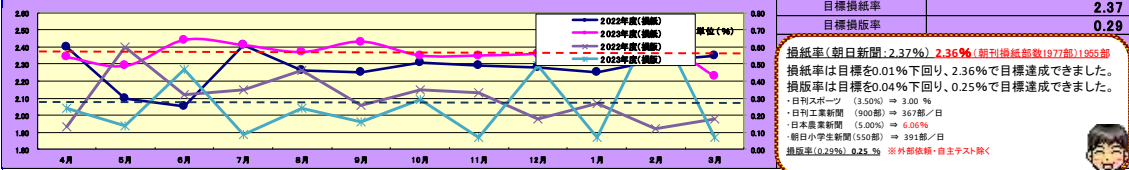


重油使用量kg	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度	5,188	2,988	2,069	1,961	1,970	1,975	2,727	4,753	8,011	7,268	6,543	6,049	52,040
2023年度	5,440	4,736	2,235	2,097	2,144	2,299	2,521	4,481	5,271	5,590	5,138	5,500	47,452
前年比	252	1748	166	136	174	325	-206	-272	-2740	-1678	-1405	-549	-4,050



<損紙・損版率 比較表>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(平均)
2022年度(損紙)	2.40	2.10	2.05	2.41	2.26	2.25	2.31	2.29	2.28	2.25	2.32	2.35	2.40
2023年度(損紙)	2.34	2.29	2.44	2.41	2.37	2.43	2.35	2.35	2.36	2.39	2.43	2.23	2.36
#(損紙部数)	2,025	1,918	2,042	1,976	1,958	1,950	1,946	1,932	1,969	1,962	1,959	1,822	1,955
2022年度(損版)	0.13	0.60	0.32	0.35	0.46	0.26	0.35	0.33	0.18	0.27	0.12	0.18	0.29
2023年度(損版)	0.24	0.14	0.47	0.09	0.24	0.16	0.29	0.07	0.49	0.07	0.77	0.07	0.25



<排出物 比較表>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度	5,083	3,280	4,224	3,703	2,813	4,711	2,394	3,340	3,235	1,471	2,964	1,704	38,922
2023年度	4,433	1,450	3,134	2,803	1,503	3,571	2,754	3,590	1,655	3,341	1,364	3,834	33,432
前年比	-650	-1830	-1090	-900	-1310	-1140	360	250	-1580	1870	-1600	2130	-5490

